

神代小改築工事は地元共同企業体 仙北市 9月定例議会



仙北市の9月定例会は、9月4日から9月25日まで、会期22日間の日程で開かれた。当初の提出議案は、条例5件、補正予算8件、決算認定3件など19件。追加案件は神代小改築工事請負契約で合計20件の提案だった。

開会冒頭、桜まつりの臨時駐車場料金問題で、関係職員を処分したことが報告され、市長の陳謝で9月議会は始まった

会期第1日

議会に提案された議案は、条例、補正予算、企業会計決算、市道の認定・廃止などである。追加提案は神代小改築請負契約、固定資産評価委員会案件である。

外町交流広場条例

中心市街地活性化と観光交流サービスの向上を図ることを目的に設置された。当面は仙北市商工課が管理運営するが、将来は指定管理者による管理を予定している。

条例では開館時間が市役所の勤務時間どおり。また市長の使用許可を受けなければならない、等々お役所仕事であり、目的に沿った活用はできそうにない。早く指定管理者による管理に切り替えることが必要だ。



市街地活性化の役割をどう担う

条例では開館時間が市役所の勤務時間どおり。また市長の使用許可を受けなければならない、等々お役所仕事であり、目的に沿った活用はできそうにない。早く指定管理者による管理に切り替えることが必要だ。

市立病院経営に赤信号！

■平成19年度病院事業会計決算

田沢湖病院の19年度決算は、2億3055万円の赤字決算。

累積欠損金は4億2038万円に増加し、田沢湖病院の経営内容はさらに悪化した。

角館病院も19年度6856万円の赤字決算。累積赤字は10億5906万円に膨れ上がった。仙北市による病院経営は、危

機状況にあることをお互いが認め合い、経営改善に心しなければならぬ事態である。

人権擁護委員推薦に同意！

「人権擁護委員として推薦したいので、議会の意見を求める」という諮問第3号が提案された。

角館町白岩下掬54番地草薙紀雄（64歳）氏に仙北市議会は、全会一致で同意した。

合併後、市道の見直し！

■合併してまもなく3年になろうとしているが、このたび同一名称の変更や起点終点など、大幅な見直しがあり、市道廃止と認定案が提案された。

一般会計2億2514万円を補正 除雪費に1億4千万円！

■(歳入)

最も多いのは「繰越金」で、1億5321万円は歳入の約66%を占める。国から交付される「地方交付税」は、3109万円が2番目に多い。「財産収入」は土地や立木の売り払い収入で1581万円。市債は臨時財政対策債で1100万円。県支出金は障害者自立支援臨時対策補助金、小学校費委託金など、1020万円の補助金である。国庫支出金はわずか170万円で汚水処理施設整備交付金(浄化槽)の164万円が主である。

■(歳出)

最も多い支出は土木費で支出額の約65%を占める。主なものは今年冬の冬期交通対策費



シーズンを前に出番を待つ除雪機械

で、1億5607万円である。そのうち1億4000万円は除雪委託費である。

次に多い支出は総務費で、財産管理費や台湾の姉妹都市訪問費などの総務管理費が1118万円。

徴税費は2662万円、委託料と備品購入費である。その他統計調査費など総務費の補正総額は4008万円である。

民生費の内訳は、社会福祉費が917万円で、そのうち介護保険特別会計への繰出が744万円。児童福祉費が、301万

円の補正。民生費の総額は1218万円の補正。

衛生費は浄化槽施設整備事業費493万円など547万円の補正である。

農林水産費は農地費、農業施設費など298万円の補正。

商工費は外町交流広場施設管理運営費219万円、観光費は施設維持管理費等362万円、桜振興費53万円など総額634万円の補正である。

教育費は小学校費が473万円、中学校費が498万円で、生徒派遣費補助金が大半である。その他に幼稚園費や社会教育費が少額補正された。

なお地方債の平成20年度末残高見込み額は、270億9893万7000円で、19年度と比較すると約4億円近い減額の見通しである。



市民の安全な水にかかせない急速ろ過器

平成19年度企業会計決算

2億9844万円の赤字決算―市立病院

■病院事業会計決算

平成19年度の角館、田沢湖両病院の事業会計決算認定案が議会に提出された。収入決算額は49億4235万円。支出決算額が52億4080万円

で、収支決算額マイナス2億9844万円となり、3億円近い赤字決算となった。角館病院の決算をみると、

平成19年度の純損失額は、角館病院が6855万円、田沢湖病院が2億3055万円で、合計すると2億9911万円の赤字額を計上した。これに両病院の前年度繰越欠損

金11億8033万円を加えると累積欠損金は14億7944万円となり、病院事業会計も仙北市一般会計同様、危機的状況下にある。

■温泉事業会計決算

19年度の収益は3572万円の前年比49万円増となった。費用は2945万円の前年より0.1%減額となった、純利益は前年度より53万円増の626万円を計上した。

■水道事業会計決算

水道事業の収益は前年比234万円減の2億

8930万円である。費用は前年比899万円減の2億5748万円となった。純利益が前年比665万円増加して、3181万円の計上となった。

簡易水道事業の収益は前年度より265万円増加して、6600万円。費用は職員給与費等の減により812万円減少して5262万円となった。この結果、前年度比1078万円増の1338万円の純利益となった。

(審査内容は11Pに記載)